

大震災から約1週間が経過した時点で、出版業界の現状をまとめてみると、次のようになる。

（出版社）小学館、集英社などの大手では一部の社員を除いて社員の「自宅待機」を実施している。

（印刷）電力不足、停電によって稼働率が落ちている。

（製本）紙不足が深刻化。特にグラビアの紙が不足。大手以外は手配できない状況に。

（流通）ガソリン不足のため、配送はすでに隔日に。17日（木）と18日は配送なし。日本出版取次協会は遅延を発表。

（部数）雑誌に関しては各誌5～10%減。女性誌などは20%減も。

（発売）雑誌協会は発売日の変更をリリース。すでに週刊誌は2日遅れになりそうな状況。

（書店受注）軒並み30%ダウン。

（書店売上）軒並み半減。

（広告）4月、5月、6月の出広キャンセル続出。見込みが立たない状況。

こうした現実から、集英社は2011年3月17日、3月28日発売予定の『週刊少年ジャンプ』を同年4月4日発売に、一週間延期すると発表した。今後、ほかの出版社の雑誌、書籍もそうなるだろう。また、全書籍、全雑誌の売り上げを、地震前と比較してみると、今週は半分という、ほぼ壊滅状態になっている。

この状況がいつまで続くかはわからないが、あと

2

、

3

カ月も続けば、今年の後半は中小出版社の倒産が続出する可能性がある。